13 上京と下京

かみぎょうとしもぎょう

知る

■左京・右京から上京・下京へ

京都には現在の行政区とは別に、上・下という二つの地域的概念がありました。これは、平安京以来の都市構造の変化によって次第につくられたものです。

平安京は朱雀大路を中心に左京（東京）と右京（西京）の町が左右対称に作られました。しかし土地が湿って住居に不適当だった右京は早く衰退し、人家が左京に集中しました。そのうえ左京の市街地が南と北に分かれるように延びはじめ、その結果、北の方が上、南の方が下というように、左京の町を二分する地理概念が生まれました。

平安末期には新たに上辺と下辺（『今昔物語集』）という言葉が生まれ、鎌倉時代の建治元（一二七五）年ころには「上下町中」の語が文献に見え始めました。南北朝時代には上京や下京という語も次第に使われ、十五世紀初頭には上辺と上京、下辺と下京が併用されるようになりました。

天文年間（一五三二～五四）には、上京や下京に町の自衛や自治を目的に町々が団結し、町組ができたことが確認できます。

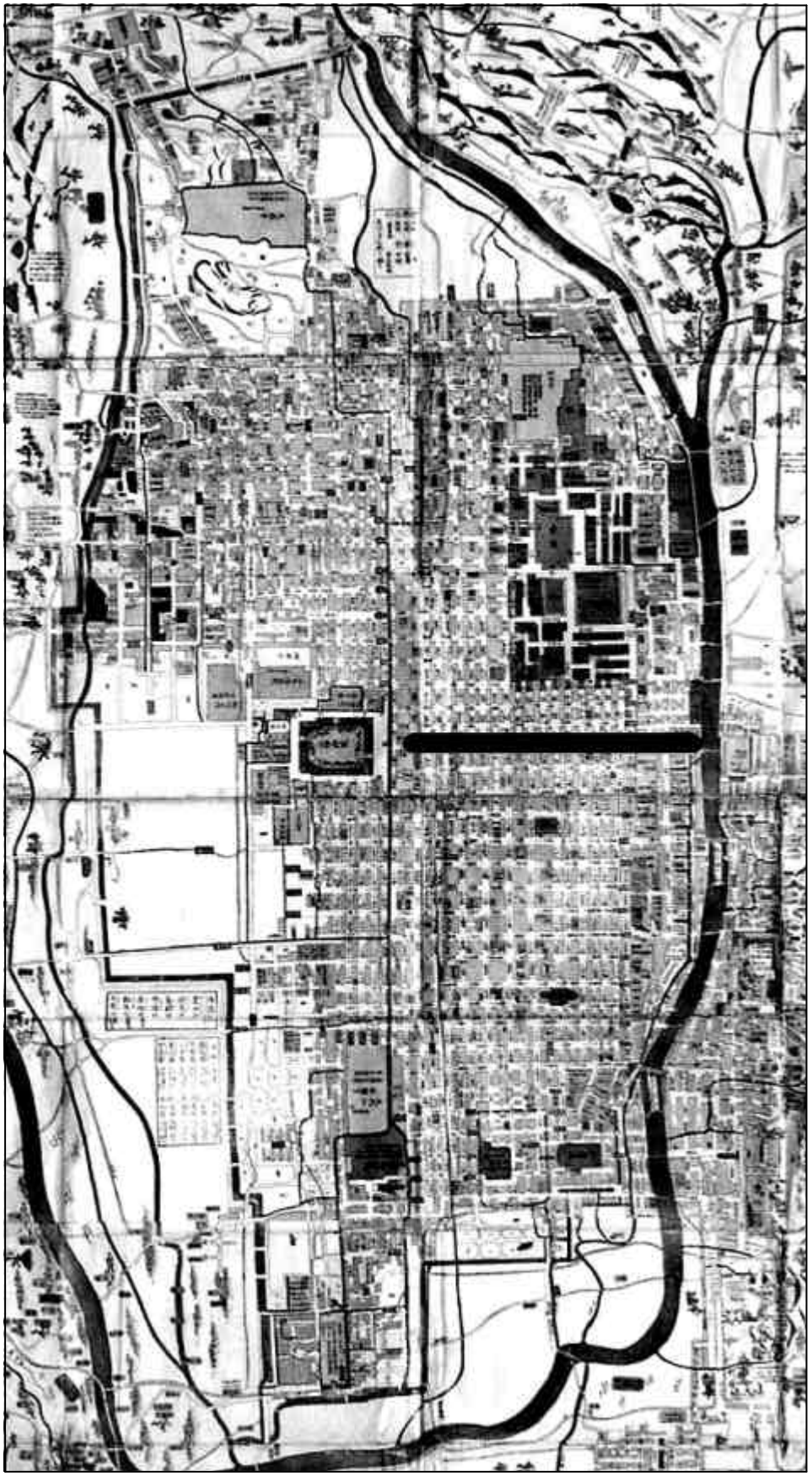
■中世以降の上京と下京

永禄十一（一五六八）年織田信長は足利義昭を奉じて入京しました。そのころの上京の景観は「上の都は、日本全国の都にして、甚だ富みたる人居住し、日本に於いて用ひらるゝ絹物及び緞子は悉く此処にて製造し、又重立ちたる人々の夫人にして最も高貴なる者住みしが…」「上の都は下の都より大なること二倍なる」（『耶蘇会士日本通信』）というように、御所があり富裕の者が集まる上京に対し、下京は商業街区であり民衆の町でした。

江戸時代には、二条通を境に京都の町は上京と下京に別れていました。明治時代になり、上京と下京を基礎として行政区の上京区・下京区が生まれ、のち市制施行により京都市上京区と下京区になりました。

昭和四（一九二九）年、上京区・下京区のうち、丸太町以南四条通以北に中京区が新設されました。

(c)2003 京都市（制作 京都市歴史資料館）ver.1.0



江戸時代後期の古地図に見る上京と下京。中央部に引いた横線（本シートで追加）が二条通で、この通りを境に上京と下京に分かれていた。二条通は二条城の大手筋で、この通りの東端が高瀬川の起点である。

(c)2003 京都市（制作 京都市歴史資料館）ver.1.0